

起きて半畳

— 貧富の差と需要 —



東郷 潤

もしあなたが大金持ちだったらって想像してみてください。

**お金なら
いくらでもあるぞ！**



レストランに行きました。

いくらでもお金があるとして、あなた、
何十人分も食べますか？

も、もう食えない！



まさかね！ そんなに食べたら死んじ
やいます。

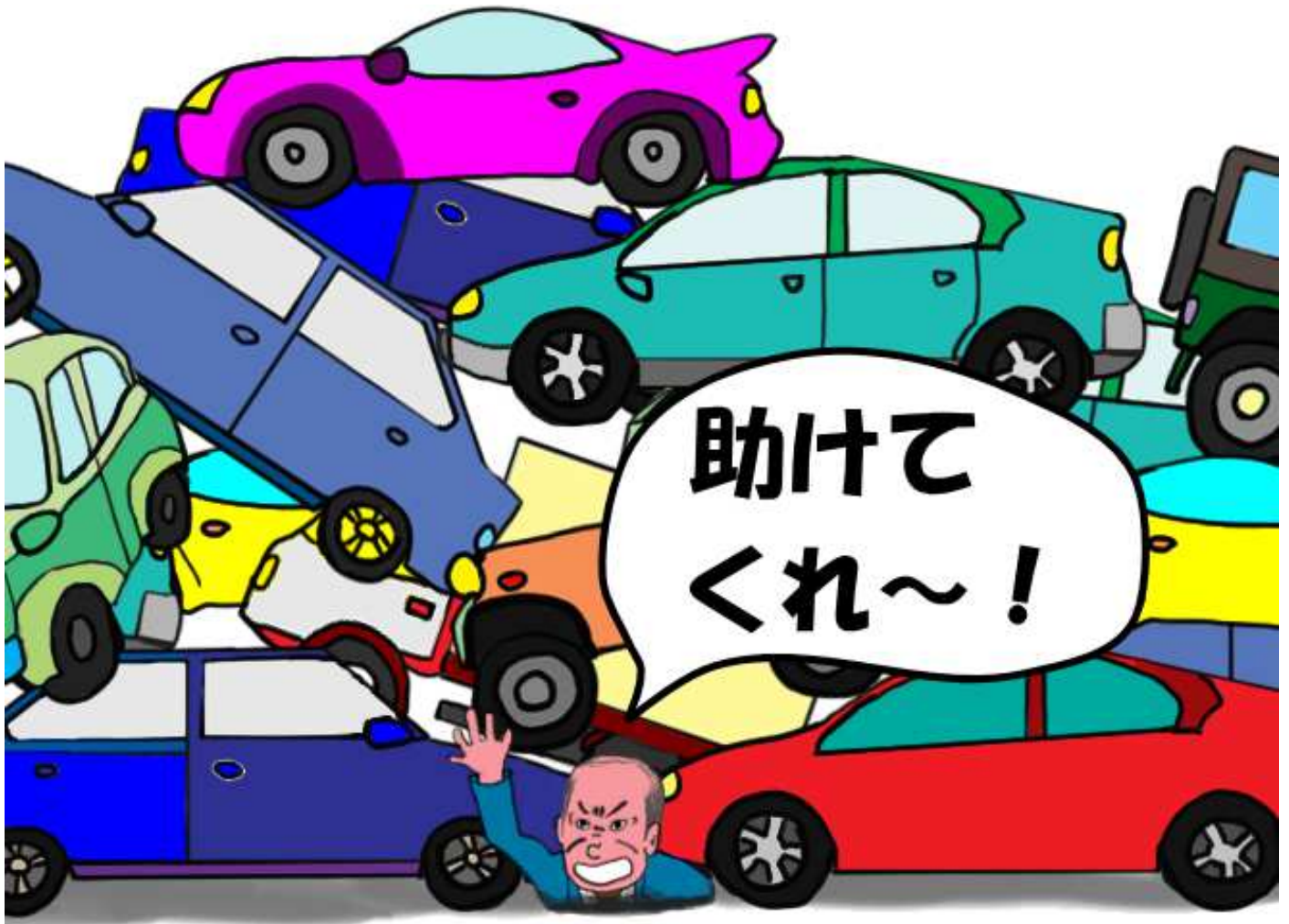
次に電気屋さんへ、行きました。

いくらでもお金があるとして、あなた、
テレビを何十台も買いますか？



まさかね！ せいぜい買っても数台で
しょう。それ以上は邪魔なだけです。

次に自動車販売のお店へ行きました。
いくらでもお金があるとして、あなた、
何十台も車を買いますか？



まさかね！　せいぜい買っても数台で
しょう。　それ以上あっても、管理す
るだけで大変です。

さて今度は、違う想像です。異なるルールを持つ100人の村が二つあると想像してみてください。一つは、自由競争村。もう一つは、分け合い村です。どちらの村にも、大金持ちが一人と、99人の貧乏人が生活しているとします。

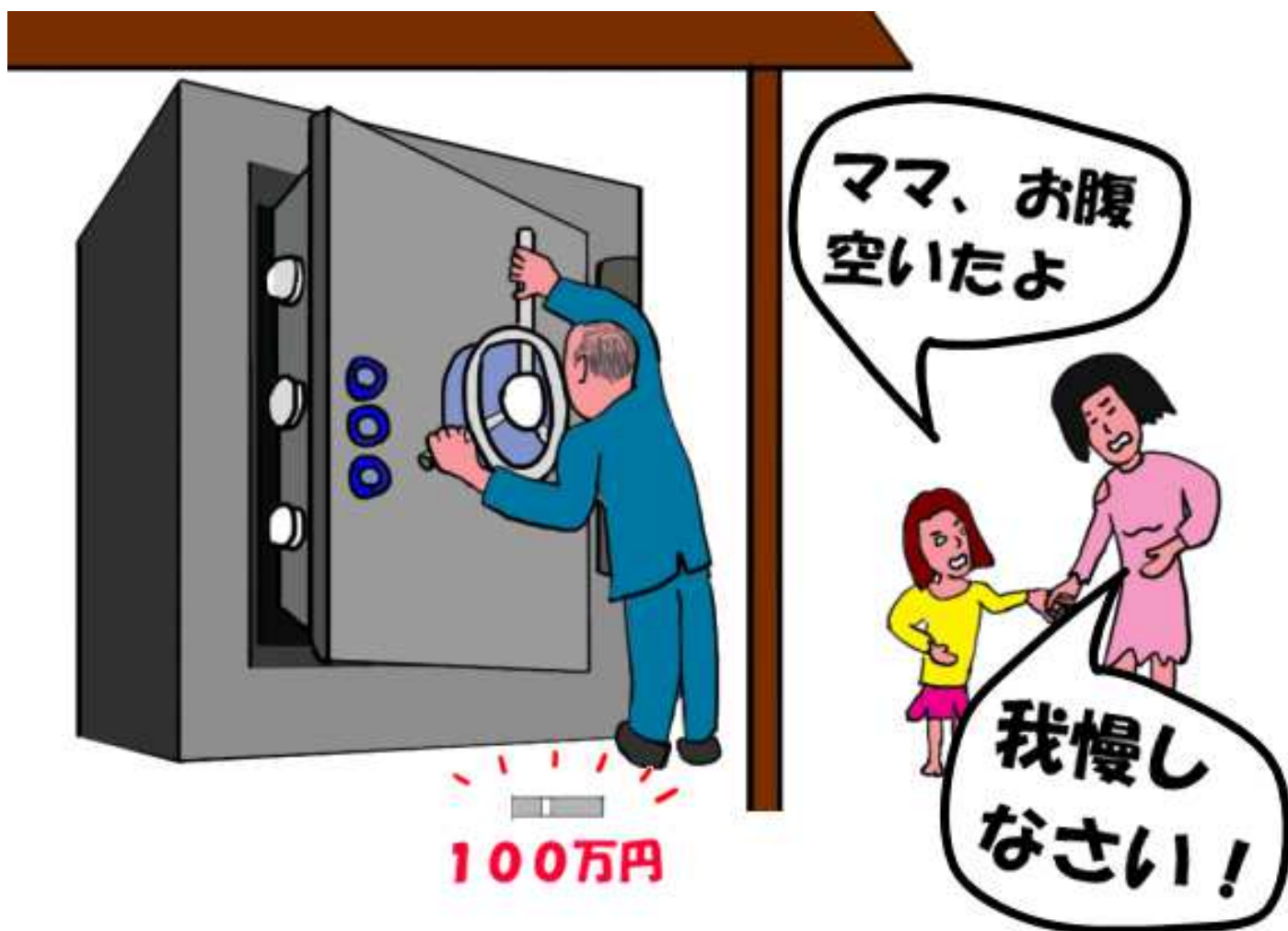
自由競争村



分け合い村



ある日、それぞれの村に100万円、収入があったとします。そして村のルールに基づいて、自由競争村では100万円を全部、大金持ち一人の収入にしたとします。



あれ？ 金庫にしまっちゃいましたね。

一方、分け合い村では、村のルールに基づいて、100万円を全員に1万円ずつ、配ったとします。するとどうでしょう！？ 99人の貧乏人が食事を始めました。

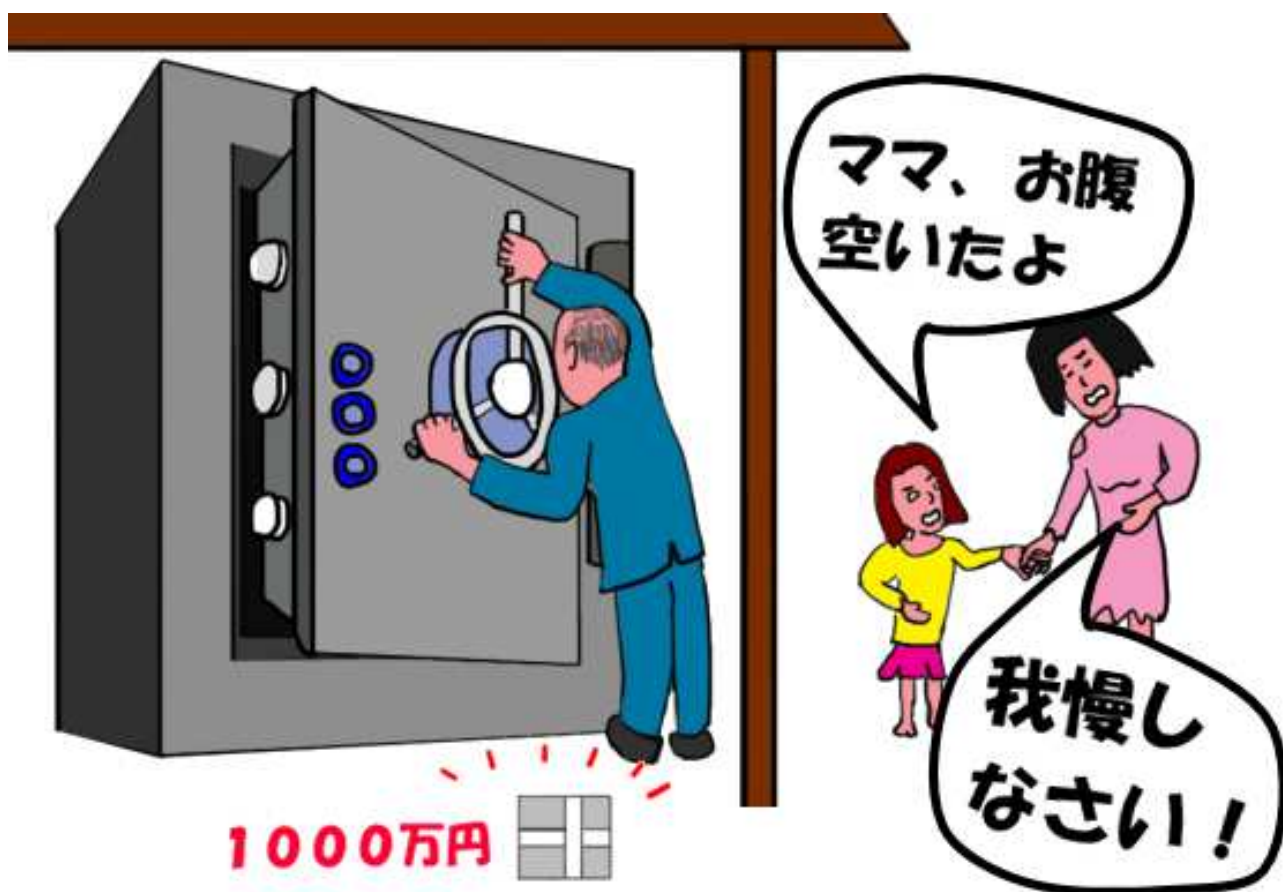
**3日ぶりの
食事だ！ う、うまい！**



みんな、おなかが空いていたのですね！ 99人分の食事が消費されました。

さてまた別の日、それぞれの村に1000万円、収入があったとします。

村のルールに基づいて、自由競争村では、1000万円を全部、大金持ち一人の収入にします。



あれ？ 金庫にしまっちゃいましたね。
村の消費は全く増えません。

一方、分け合い村では村のルールに基づいて、1000万円を全員に10万円ずつ、配ったとします。

やった～、テレビだ！

パチパチ



するとどうでしょう！？ 99人の貧乏人はテレビを買いました。みんなテレビを見たかったのですね！ 99台のテレビが村で消費されました。

さてまた別の日、それぞれの村に1億円、収入があったとします。村のルールに基づいて、自由競争村では、1億円を全部、大金持ち一人の収入にします。



あれ？ 金庫にしまっちゃいましたね。欲しいものはもう全部、持っていますものね。

一方、分け合い村では、村のルールに基づいて、1億円を全員に100万円ずつ、配ったとします。

するとどうでしょう！？ 昔、貧乏だった99人の村人が自動車を買いしました。

やった～、夢のマイカーだ！



みんな自動車に乗りたかったのですね！ 99台の自動車が村で消費されました。

**消費（需要）を増やし、
経済を活性化したければ、
貧富の差を
減らすことです。**

あとがき

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、他の方にも読ませてあげていただければと思います。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

www.j15.org

©Jun Togo 2016